

サピナカボソタマムシの新産地 松尾 隆人

兵庫県においてサピナカボソタマムシ *Coraebus ishiharai* Y.Kurosawa, 1943 は、宍粟郡波賀町氷ノ山で得られた1例(内藤, 1997)のみが知られている。

筆者は、段ヶ峰の標高750m付近のヤマボウシから本種を得たので報告する。

[採集記録]

1ex., 朝来郡生野町栲原段ヶ峰, 14.VII.2001

<参考文献>

内藤隆夫(1997) 兵庫県におけるサピナカボソタマムシの記録, 月刊むし 322: 6

高橋寿郎(1998) 兵庫県のタマムシ(2), きべりはむし 26(2): 8

(MATSUO TAKAHITO 多可郡中町牧野748)

諏訪山公園のマイコトラガ 山口 福男

神戸市中央区諏訪山公園のマイコトラガ(*Maikona jezoensis* Matsumura) についてはさきに本誌第24巻第1号に報告したが、その後7年ぶりに2001年の早春に捕獲したので再報告する。

採集地 神戸市中央区諏訪山公園

2001年3月30日, 1頭 4月5日, 1頭

2頭ともに公園内の水銀灯に飛来し、夜が明けてもそのまま壁に静止していたものであった。兵庫県版レッドデータブックに記載のある希少種とされているが、同じ場所で続けて2頭も再捕獲されたことから、本種は少ないながら、当公園内で安定した生活をしていると思われる。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

スギの樹液に来ていたスジクワガタ 山本 勝也

兵庫県立人と自然の博物館と兵庫昆虫同好会が行った六甲山昆虫相調査のエリアに含まれる六甲山フィールドアスレチック内で、スギ *Cryptomeria japonica* D.Don. の樹液に来ていたスジクワガタ

Macrodorcas striatipennis Motschulsky を観察採集したのでここに報告する。

2001年8月14日、筆者は家族と一緒に盆休みを兼ねて、六甲山フィールドアスレチックで遊んだ。もちろん筆者にとっては昆虫調査も兼ねてなのだが...

アスレチック用具を固定するために、直径30cmほどのスギの幹に金属製のワイヤーが巻きつけてあり、その部分から樹液が出て発酵臭がしていた。

それを筆者の甥である山本航平君が見つけた。樹皮下のスジクワガタ1♂を採集した。その後、筆者も一緒になって採集された樹皮下あたりを丁寧に見ていくと1♂を追加採集することができた。またヨツボシケシキスイ *Librodor japonicus* (Motschulsky) も数頭、同所にいた。

本種を含む樹液に集まる昆虫類は普通、広葉樹で見かけることが多いと思う。針葉樹の樹液も条件によっては発酵し昆虫類が集まるようである。ネプトクワガタについては針葉樹であるモミの樹液に集まる¹⁾事が知られているようである。注意深く見ていくと針葉樹でも案外クワガタムシを得ることができるのかもしれない。

<参考文献>

1) 岡島秀治・山口進(1988) 保育社 検索入門
クワガタムシ: 141

(YAMAMOTO KATSUYA)

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)

ウスバツバメガの幼虫騒動 近藤 伸一

ソメイヨシノが自宅にあり、道に面して生えている。20年前に親指ほどの大きさの苗木を植えたものが幹周り70cm、高さ7mの大木になった。このサクラの葉が毎春ムシにやられるのだが、2000年は特にその被害が大きかった。木の下を通ると幼虫が葉を食べる音がしてフンがポトポトと落ち、舗装道路はいくら掃除をしても、すぐにフンで茶色になる。特に雨の日は悲惨でヌルヌルになり、通行人にはひんしゆくをかっているはずである。

2000年5月20日は休日朝から雨で、ヌルヌルになった道をバケツであらい流した。近所の人に「これがあるからサクラは植えないんですよ」といやみを言われながら黙々と掃除をした。葉はほとんど食

い尽くされている。さすがにサクラの葉を原料としたフンだけあって、さくらもちの良い(クマリンの)香りがした。

午後から天候が回復し日が射し指し始めた頃、外出しようとしてサクラの幹を見て驚いた。一面びっしりと黄色い毛虫が張り付き、枝から糸をはいて地面から1mぐらいの高さでぶら下がっているもの、スーと一気に地面まで降りるものなど様々である。通行人もこれを見て悲鳴をあげる始末である。黄色に黒い線、イラガの幼虫より一回り大きいウスバツバメガの幼虫である。

幼虫をピンセットで採集し、ビニール袋に数えながら取り込んだ。木の上からポトポトとフンが落ちてくるので帽子をかぶらなければならなかった。幼虫は幹を下に向かって移動しているが、幹を離れるものは少なく、地際に来るとUターンして上に向う。サクラの幹から離れる幼虫の数は少ない。幼虫の黄色には個体差があり、濃いものと薄いものがある。黒い筋はダイヤ型の黒点がつながったものだが、この線も曲がったものなど色々な個体がある。360匹で手の届く範囲はいなくなり、幼虫退治を中断した。14時20分であった。その後も幼虫が降りてきたらまた採集するという作業を繰り返した。採集数と時間は200匹14時40分、40匹14時50分、141匹15時20分、140匹15時40分、120匹16時30分、57匹17時45分という内訳で、この日はなんと1058匹を退治し、幹の幼虫密度も気にならない程度になったので作業を終了した。

翌21日の朝6時、あれだけ幹にいた幼虫が全く見えない。上の枝に静止していたようで、日光が射すと活動を始め、幹を這い始めた。昨日あれだけ退治したためか、数が減り35匹7時45分、135匹8時25分、67匹9時35分、52匹11時00分、35匹18時00分が採集内訳で、この日の合計は324匹であった。

幼虫は一斉に幹を伝って降りている様に見えるが、その割に地面を這う幼虫の数が少ないのが気になっていた。幼虫の動きをよく観察すると、地際付近まで降りてきた幼虫は反転してまた幹を登るようである。そこで幼虫の移動コースとスピードを知るため、1から20までの番号札を作り2分ごとに幼虫のいた位置に番号札を張り付けて、幼虫の這うコースを残した。幼虫の2分おきの位置は、まず地上180cmの高さから下に向かって50cm、35cm、25cm、10cmと徐々にスピードを落とし、地上60cmの位置で反転して上に向かって40cm、25cm、15cm、25cm、45cm、30cm、40cm、50cmとスピードを上げて更に上に上っていった。やはり地面には降りなかった。平均速度18cm/分、最高速度25cm/分で8分間に120cm下り、16分間に270cm登ったことになる。

翌22日からは出勤のため幼虫退治は家内の担当と

なった。幼虫の数は少なくなり、道路の糞掃除をしなくてもよくなったようで、22日は約50匹、23日も約50匹を採集したが、幹を這う数は減り枝から糸を吐いてぶら下がっている割合が多くなったそうである。24日になると幼虫はサクラの木から分散したようで、幹に見られたのは約10匹で、生垣や植木の葉、壁や玄関のドアに黄色く目立つ幼虫が約20匹、これら幼虫を退治して通算1500匹余りの幼虫退治は終了した。

アイスクリームのケースに入れて幼虫6匹を飼育したが、サクラの葉は全く食べず、27日にピンクの糸で追われた繭がケースに張り付くように一つ出来た。飼育ケースが半透明であるため外から繭の内側が見える。まだ黄色い幼虫のままで、背を繭の反対側、つまり外向きにしている。

28日には1幼虫が壁面に糸を吐きその上に静止していたが、残りの4匹に変化はなく、31日には5匹が繭の中、内1匹が全く繭に覆われて外からも姿は見えないが残りの4匹はまだ幼虫のままで、外に背を向けていつのが3匹腹をむけているのが1匹ある。残りの1匹はまだ糸も吐いていないという状況であった。その後幼虫は壁や付近の植木の葉裏に数匹見られる程度になり、サクラの幹で見たのは1匹だけであった。

6月2日にはサクラから少し離れたモミジの葉に蛹が見つかり、6月3日は付近の壁に2匹の幼虫とスモモの葉裏に8匹の幼虫を確認した。幼虫は葉裏の中央主脈に静止し腹側に糸を吐いているものもいた。

6月11日には6月3日の8匹の幼虫の内5匹は葉の裏で蛹化して、残りの3匹は依然幼虫であった。

その後はこの幼虫に興味を失ってしまったようで、野帳に記載がなく判然としないが、秋に見た成虫の数は思ったほど多くなく、翌2001年は幼虫騒動が起こらなかった。

(KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)